

## 持続可能な開発のための教育（ESD）とは何か

平成26年3月12日

1. ESDとは何か

○ ESDの現場で、何をすれば良いかをわかりやすく伝える説明ぶり。

「 持続可能な社会の実現に向け、必要な知識、能力、態度を身に付け、その実現に向けた課題を解決する実行力を持つ人材を育てる教育・学習のこと。 」

2. ESDとは何かを説明する上で主要な要素(1) ESDが目指すゴール

○ 持続可能な社会とは、健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域にわたって保全されるとともに、それらを通じて国民一人ひとりが幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承することができる社会です。この社会の構築に向け、子供から大人に至るあらゆる主体に対し、様々な機会・場を通じてESDが提供されることにより、各主体において、課題の解決策について深い理解が得られ、自らの価値観の変容等とともに自然に行動が伴うようになるとともに、直面する課題の解決に向けた実行力が身に付けられることで、地域から地球規模に至るまで様々な取組が進められることを目指します。

(2) 身に付ける知識

○ 持続可能な社会の実現に向けた様々な課題について、各課題の構造や、その解決に向けた行動が備えるべき要素を正しく理解し、その解決策を見出すことが必要。

## 【 課題の構造に関する概念（例） 】

- ① 多様性 : 多種多様な事物から成り立ち、多種多様な現象が起きていること
- ② 相互性 : 環境の各事象は勿論、環境と経済・社会の各事象が相互に作用していること
- ③ 有限性 : 資源採取量や有害物質排出量など環境の容量は有限であること

## 【 課題解決に向けた行動が備えるべき要素に関する概念（例） 】

- ④ 公平性 : 地域や世代を渡って公平・公正・平等でなければならないこと
- ⑤ 連携性 : 課題の解決には多様な主体の連携・協力が不可欠であること
- ⑥ 責任性 : 望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持つこと

### (3) 身に付ける能力・態度

- 現実に直面する課題の解決に向け、以下のような能力・態度を身に付けることが必要。

#### 【 身に付ける能力・態度 (例) 】

- ① 批判的に考える力
- ② 未来を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的、総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

### (4) 教育・学習を実施していくに当たっての留意点

- 我が国では、環境の保全をはじめとする持続可能な社会の実現に係る様々な課題に対し、従来より様々な教育・学習や実践活動が実施されてきたが、ESDは、その内容を深め、効果を高めるための更なる工夫の視点である。  
このため、最初は、従来の教育・学習の内容に、ESDの主要な要素が既に取り入れられているかどうか確認しながら少しずつ取りくむこととしても、最終的には、より多くの人々が、必要な知識、能力、態度をより深く身に付けることができるよう、工夫を継続していくことが重要であること。
- 教育・学習の内容は、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日常生活とのつながりを意識したものとなる工夫や、五感を活用した参加型・体験型プログラムの導入を行うなど、身に付ける知識と能力・態度の双方の視点を大切にすること。
- 活動を分野的・空間的・時間的につなげ、人と人、人と自然、人と社会をつなげ、気づきを行動につなげることを留意して実施すること。
- 必要な知識、能力、態度は、こどもから大人に至る生涯をかけて身に付けていくものであり、その発達段階に応じて教育・学習の内容を工夫する必要があること。